

ひととき

第4回



子どもたちの心に 小さな種(まめ)を

まめの木プロジェクト

自然や環境へのまなざしを
育むために

子どもたちの周りにはモノがあふれています。高機能なおもちゃやゲームなど、いつときは夢中になっても、新しいモノが手に入れば見向きもしなくなってしまうこともあります。そして、いらなくなったら捨ててしまおう、という風潮は私たち大人の世界にもまん延しています。

一方で、お母さんやお父さんが使っていたおもちゃ、とりわけ木のおもちゃや手押し車で、子どもたちが楽しそうに遊んでいる光景を目にします。木がもつぬくもりが世代をつなぎ、モノを大切に作る気持ちや愛着を生み出すのかもしれない。

そこで私たちは、子どもたちが実際に木に触れ、木の良さを心と身体で感じ、そして何よりも楽しむことで、木への親しみ、木の良さを知ることになると考えました。木に関連したさまざまな遊びを提案し、必要とされる所へ出向いて行って提供しています。集めた木のおもちゃなどはすべて、日本生まれの安全・安心なものばかりです。



〈プロジェクト紹介〉 自然に触れる機会の少ない都会の子どもたちを対象に、遊びながら木に触れたり、木でモノを創る活動などの「木育」を通じて、子どもたちの「おもしろい！ 不思議？ できた！ もっと知りたい！ いいとおしい……」といった心を育み、自然への興味を引き出すことを目的として、幼稚園や保育園、児童館、小学校などで活動を展開するプロジェクトです。まめの木プロジェクトブログ http://blogs.yahoo.co.jp/mamenoki_project
まめの木プロジェクト連絡先（代表渡辺萌子）
mamepro.watanabe@gmail.com

具体的な活動プログラム

子どもたちは、私たち大人がもっている固定観念にとられず、自由にのびのびと遊びます。一人で遊んだりお友達と協力して何かを作りあげたり……。見守っているつもりが、気がつくとも大人も夢中になって遊んでいたり……。親子や先生と子どもたちが一緒に楽しめるのも大きな魅力です。このプロジェクトが子どもたちがいずれ大きくなった時に、自分たちをとりまく世界、自然や環境に向けられる豊かな心を育むきっかけになればと願っています。

ひのきのリボンのプール（p.50写真参照）

ふわふわのかんなくずがプールにあるだけ。体に巻きつけるもよし、潜って遊ぶもよし、子どもたちが全身を思いきり使って自由に遊べます。丸めてボールにしたり、リースにしたりもできます。

木のおもちや（p.51写真参照）

木の自然の色がきれい、見た目にも楽しいおもちゃです。不思議な形と色をしたパーツを穴に入れたり、たたいて音を楽しんだり、木がもつ柔らかな触覚が気持ちよいです。杉材を使ったドミノなどもあります。



写真提供

お茶の水女子大学附属いずみナーサリィ